

今週のメニュー

■トピックス

◇塩ビ管が魚のシェルター（魚礁）に

■随想

◇びっくり闘病記（その1）－腫瘍が発見されました－

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇塩ビ管が魚のシェルター（魚礁）に

昨年12月15日から17日までの3日間開催された「エコプロダクツ2011」にてブースの装飾に使った塩ビ管は全てリサイクルする予定でしたが、その約半分は多摩川で天然の魚を守るためのシェルターとして生まれ変わりました。

きっかけはエコプロ展開催中に多摩川の自然保護に取り組むNPO法人「おさかなポストの会」の山崎さんがブースに来られ、装飾で沢山使っている塩ビ管を多摩川で魚の魚礁として使用したいとの要請があり、これにVECが賛同し提供したものです。

5月6日(日)に登戸駅の近くの二ヶ領宿河原堰の横で「多摩川春のアユ祭り」のイベントが開催されました。多摩川の美化運動、アユの放流体験などイベントが行なわれた中で「魚のシェルター工作」と題し塩ビ管をノコギリでカットし、紐で結び魚礁を作る工作も行なわれました。参加したこども達は塩ビ管を1メートルにカットし、麻紐を通す作業をしました。

今回のシェルター作りはアユなどの天然の魚をブラックバスなどの外来魚から守るための魚礁（隠れ家）とするのが目的です。

塩ビ管は、長すぎると川の流れて流されるし、短いと魚が住みかにならないなど、試行錯誤をして長さを決定したそうです。すでに設置している塩ビ管シェルターには魚が住み、卵を産んでいる様子も確認されているそうです。

山崎さんによると、塩ビ管は丈夫でカットするのもノコギリで簡単に切れるなど使いやすいこともあり、多摩川春のアユ祭りの後には早速小学校の環境学習に取り入れたいと申し入れがあるなど、設置を増やしていきたいと観察を続けていきたいとのことでした（了）



エコプロダクツ2011
塩ビ管で装飾した VEC ブース



塩ビ管のカット



完成したシェルターと水中に設置したもの

◇びっくり闘病記（その1）－腫瘍が発見されました－

関東学院大学 織 朱實

今までは「オックスフォード便り」番外編として海外出張の様子を報告してきましたが、今回からは趣をぐーっとかえて「闘病記」となります。「世界まるごとハウマッチ！」みたいな記事が、いきなり「闘病」ものになるのもびっくりですが、病気にかかった（正確に言うとかかっていた）本人はもっとびっくりです。

昨年12月4日にいきなりまさに「晴天の霹靂」、人生こんなことが起こるんだ！という感じで、脊髄（首の後ろ第二関節あたり。必殺仕置き人がまさにターゲットとするあたりです。お医者さんもやたら「必殺仕置き人の場所ね。わかります？ここ！」と言っていました）に腫瘍を発見、2月に摘出手術をしました。

病名は、脊髄内腫瘍・血管芽腫、腫瘍が発生しているのに伴い、そこから浸出する髄液で脊髄に空洞症状が発生するというものです。脊髄腫瘍だけでも、国内で10万分の3という少ない症例なのですが、その中でも髄内の血管芽腫は、脊髄腫瘍を100とすると、3-8%という珍しい病気です。

よく「脊髄に腫瘍が見つかったのです」というと、みなさんに「なにか自覚症状があつて病院に行ったのですか？」と聞かれますが、全く！全くなんの自覚症状もありませんでした。それなのに、なぜ脊髄腫瘍が発見できたのでしょうか？

この経緯が、本当に偶然で面白いのです。昨年から私が嵌っているのが共同購入クーポン。ネット上で、期間限定で購入者を募り、一定人数を確保することにより低価格で商品を提供するシステムです。有名なのはポンパレとかグルポンですね。ネイルやエステ、ヘアカット、グルメが50-80%オフで手に入れることができ、見るだけでも楽しくて、仕事が忙しいこともあり、普段買い物とか行けないので、あれやこれやネットで購入して楽しんでいましたが、8月に右のようなクーポンが。「いつ受けられるかわからないけど、一度はMRI受けてもいいよね。3万円以内でこれだけ受けられればお得だし」ということで、クーポンをゲットしたものなかなか予約する気も起きず(特に問題もないと思っていたので)、クーポンの有効期限12月8日間際に慌てて、MRIを受けに行ってきました。

51%OFF
 頭部・胸部（肺）・腹部を90分でチェック
 ≪脳MRI・MRA + 全身CT検査 +
 腫瘍マーカー（ガン）検査≫ ○○駅1分



クーポン、画像はイメージです。

初MRIは、思っていたより簡単に終わり、「あれ？こんなもの？」くらいの感じでした。これが11月24日。週明け11月28日にクリニックから、携帯に電話が。「二か所ほど、通常では見られない影がでているので診断を受けに来てください」「どこですか？」
 「一つは、肺に影が出ています」あ～、これは、咳がずっと止まらないので、肺炎かな？とっていたのでそれかも（丁度天皇陛下のマイコプラズマ肺炎が大きく報道されていた時期です）。

「そうですね。そちらはそんなに問題ではないのですが、もう一つは脊髄です」

「最悪、どんな状態が考えられますか？」

「それは、お医者さんにちゃんと聞いてもらえないと技師はそういう判断ができないので、ただ通常ではない影があるということしか」それもそうだ、ということで翌日夕方クリニックを再訪。肺の影のほうは「マイコプラズマ肺炎の可能性」で検査して抗生物質をもらいました（これは薬をもらって一週間くらいで咳も止まったのでめでたし、めでたし！）

「肺は、まあいいのですが、脊髄のほうは専門医にすぐ行ってください」

「どこの科になりますか？」

「脳神経外科ですね。」

「なにが疑われますか？」

「専門でないの言い切れませんが、脊髄空洞症ではないかと思えます。」

ネットで調べてみたところ、脊髄空洞は、脊髄の中を水が圧迫する症状で通常、下肢のしびれ、飲み込みにくいという症状がでるそうです。本当になんの自覚症状もでないのかしらね～？」と思いつつ、丁度翌日11月30日が近くのJ医大の脳外科部長の担当日で（本当に偶然でした。たまたま私があいていたこの日の担当の先生が脊髄腫瘍の権威。全国に30数名の脊髄腫瘍手術認定医の先生でした）、速攻病院に行くことに。

平日の脳外科は、人気がなく、ちょっと、怖いような雰囲気でしたが、先生は、これぞ技術系！職人！という感じの方で、MRIをみるなり「髄内腫瘍が原因の脊髄空洞症でしょうね」とずばり。さらに、脊髄腫瘍の症例は、この病院では本当に多く扱っているので心配しないでくださいね、と頼りになるお言葉。「さて、手術日はいつにしましょうか？」まであっという間でした。検査を何回かするにしても、とりあえず2月23日に手術を受けることにその場で決定しました。MRIを受けに行き、手術決定まで、ちょうど土日を入れてジャスト一週間。普通は、よいお医者さんに巡り合うまで、右往左往するというのにこのとんとん拍子。ここから、不安になる暇もなく、症例もそれほど多くない大変難しい手術まで、一気に進んでいくことになりました。

次回に続く

ちょっと暗い話なので、写真は明るく5月ゴールデンウィークあけに訪問した足利フラワーパークの見事な藤を！

前回：[オックスフォード便り（番外編 バリ島編 その3）](#)



■ 編集後記

佐渡で放鳥されたトキから誕生したひなが巣立ったとの明るいニュースが伝わっていますが、今週号のトピックスでは、多摩川に住む小さな魚を守るために塩ビ管が利用されていることを紹介しています。塩ビ管の比重が 1.4 ぐらいと水に沈みやすいという点も功を奏しているようです。

しっかり結びつながら水に流されないで留まってほしいものです。(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp